

* ブラッシャー天体写真儀の里帰り

アーカイブ室新聞 251号に「東京天文台時代のブラッシャー天体写真儀について」という記事を書き、現在、国立科学博物館のつくばの倉庫に保管されているブラッシャー天体写真儀を国立天文台天文機器資料館が出来たのを機に里帰りさせ、古巣の国立天文台（東京天文台が改組転換した）に展示されることになったと報じた。

そのブラッシャー天体写真儀の輸送費の目処が立ち、貸出し依頼の書類も整い、2010年1月26日、三鷹の地に戻ってきた。ブラッシャー天体写真儀の東京天文台での活躍、国立科学博物館にわたった経緯などについてはアーカイブ室新聞 251号を参照していただきたい。ブラッシャー天体写真儀が国立科学博物館に委託される時点では、この望遠鏡の対物レンズは取り外されていた。それらの対物レンズの行方が知れないのが残念である。アーカイブ室新聞 268号に書いたが、ブラッシャー天体写真儀に同架されていた望遠鏡の対物レンズである口径16cm、 $f=81\text{cm}$ のASTRO-TESSARレンズは幸い筆者の手元にある。

度々の掲載になるが写真1が活躍していた頃のブラッシャー天体写真儀である。

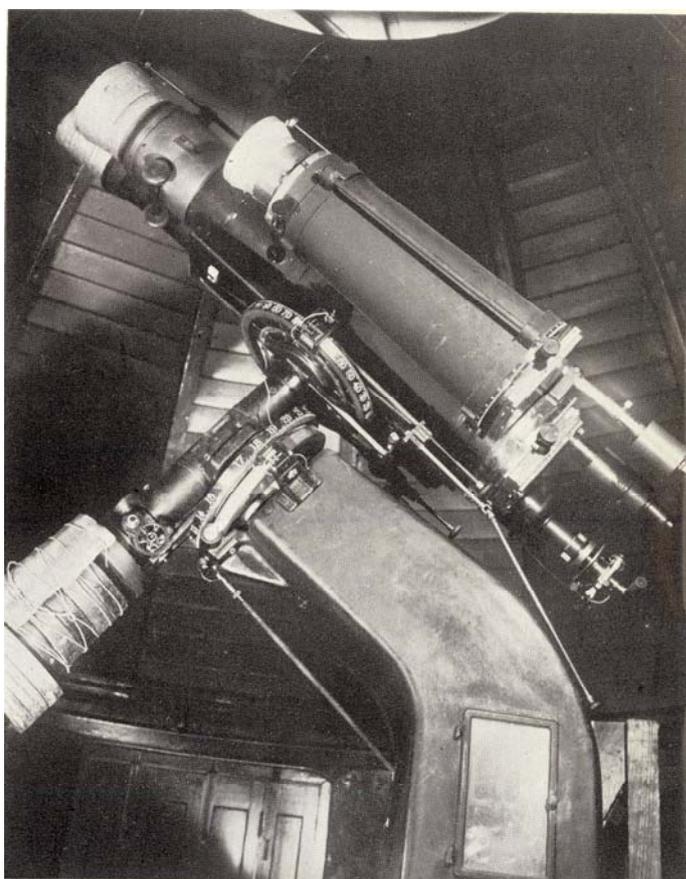


写真1 三鷹で活躍していた頃のブラッシャー天体写真儀

写真 2 が、天文機器資料館前の広場に着いたブラッシャー望遠鏡を載せたトラック。左端の人物は国立科学博物館の洞口俊博氏である。



写真 2 天文機器資料館前に到着したブラッシャー望遠鏡を載せたトラック
写真 3、4 がクレーンを使って天文機器資料館（自動光電子午環棟）のスリット（開閉屋根）から搬入する様子である。



写真 3 クレーで吊り上げられる望遠鏡



写真 4 スリットから搬入される望遠鏡

写真 5 が天文機器資料館に展示されたブラッシャー天体写真儀である。



写真 5 天文機器資料館に搬入展示されたブラッシャー天体写真儀

写真 5 の右側に写っているのは太陽単色写真儀（モノクロ）であり、これも民間会社にわたっていたものが里帰りしたものである。